

基本目標

基本理念

わたしがつくる みんなでつくる

つながり支え合うまち

※地域福祉活動計画とは、地域の支え合いを進めるための仕組みを地域の方々と一緒に考え取り組んでいく「住民活動計画」です。

- 1 困っている人をひとりにしないまち
- 2 様々な人が協力しあうまち
- 3 誰もが地域活動に参加できるまち



「このまちを愛しています。」
と、誰もが言えるまちになるといいな。
「このまちの人たちを愛しています。」
と、みんなが言える関係だといいな。
そんな思いを込めて、この計画を、通称



WE ^{LOVE} 東村山プラン
と呼ぶことにしました。

東村山市第5次地域福祉活動計画

ダイジェスト版

2018～2023

WE ^{LOVE} 東村山プラン

- 重点アクション① フラス 全町に「あいさつ＋ひと言運動」を進めます
- 重点アクション② 「町なか護美プロジェクト」を進めます
- 重点アクション③ 「子ども協力員」の検討・募集をはじめます
- 重点アクション④ それぞれの人に合った「行きたくなる場所＆場」づくりを進めます

WE ^{LOVE} 東村山プラン の6年後のスケッチ

- 意識づくり
- 地域、人、活動に関心を持つきっかけづくり
- 子どもが活躍できる仕組みづくり
- つながりが実感できる場づくり
- これらは市民の参加や社協発展・強化計画等によって、成長し、根を張り、花を咲かせます。
- やがて実を結び、その種は落ち、新たな芽となり、再び成長の過程をたどっていきます。

花（基本目標）を咲かせるために携わった市民の方々の意識の高まりや行動が周囲に広がっていくことで、計画の基本理念である土壌をより豊かなものにしていきます。

みんなの思いを形にしていくための具体的な4つの行動（＝重点アクション）を立案しました。

東村山市第5次地域福祉活動計画 ダイジェスト版 平成30(2018)年4月

東村山市第5次地域福祉活動計画策定委員会

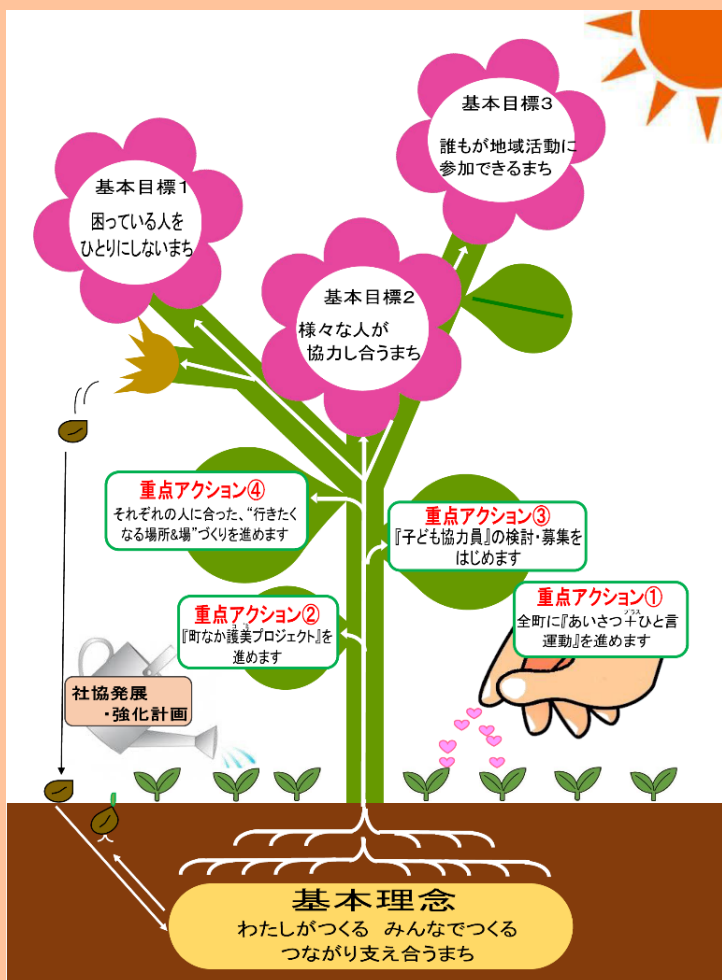
〔事務局〕
東村山市社会福祉協議会
〒189-0022 東村山市野口町 1-25-15
TEL 042-394-6333 FAX 042-393-0411
メール； soumu@hm-shakyo.or.jp



社会福祉協議会
イメージキャラクター
「ぼんたくん」

オリジナル版は社協ホームページ等からご覧いただけます。[www.hm-shakyo.or.jp/]

計画の取り組み状況はフェイスブックで配信しています。
[ぼんたくんのまちづくり日記]



重点アクション ①

プラス
全町に『あいさつ+ひと言運動』を進めます

6年後の
目指す姿

住民同士の"会えば立ち話ができる関係"を広げます

背景と
課題

- 隣近所の人と立ち話をする機会少ない
- 地域の催しへの関心が薄い
- 暗い道を一人で帰る子供がいて気になる
- 地域懇談会に新たなメンバーや若い世代の参加が少ない

アクション

地域懇談会を通じて、地域に出るきっかけづくりに取り組みます



こんな取り組み
できたらいいな！

- ★わたしが
- ☆私たちが
- ◆みんなが

- ★隣近所の人と毎日笑顔であいさつします
- ★隣近所の人を誘って自分のまちの地域懇談会に参加します
- ☆『あいさつ+ひと言運動』に取り組むグループ・団体を立ち上げます
- ☆グループ・団体のメンバーを地域懇談会に誘います
- ◆各町に『あいさつ+ひと言運動』ののぼりを立てて運動をPRします
- ◆午前8時と午後3時の小学校の登下校時に地域に出て見守り活動をおこないます

ポイント！

顔見知りになることで、見守り、防犯、防災につながります
個人だけではなく、施設や団体の専門性を活かしていきます

重点アクション ③

『子ども協力員』の検討・募集をはじめます

6年後の
目指す姿

『子ども協力員』がまちづくりに大活躍

背景と
課題

- ボランティア活動をしたいけれど、参加方法が分からない、情報が得にくい
- 子ども達の意見がまちづくりに反映される場・機会が少ない
- 自分の住む町への愛着や、地域の活動への関心が低い

アクション

子ども達が主役になってまちづくりを進めます



こんな取り組み
できたらいいな！

- ★わたしが
- ☆私たちが
- ◆みんなが

- ★『子ども協力員』になって、地域活動に参加します
- ★自分の住む町を良くするために、何ができるかを家族や友達と話し合います
- ☆『子ども協力員』が活動できる場を提供し、一緒に、地域活動に取り組みます
- ☆『子ども協力員』の担当者をつくって、活動を応援します
- ◆地域の行事に『子ども協力員』のお手伝いを呼びかけます
- ◆地域の中で活動の募集、周知などをして、地域で『子ども協力員』を育てます

ポイント！

子ども達自身の意見をまちづくりに反映させることができます
親世代も地域活動に関心を持つようになり、参加への意識につながります

重点アクション ②

ごみ
『町なか護美プロジェクト』を進めます

6年後の
目指す姿

自分の町に愛着が持て、自慢に思えるまちづくりを進めます

背景と
課題

- 住民が地域や福祉について関心が薄い
- 地域活動に協力してくれる人が少ない
- 自治会や町内会といった地縁組織がない地域がある
- 地域のことをよく知らない

アクション

気軽に参加できる活動を通じて、地域への関心を高めます



こんな取り組み
できたらいいな！

- ★わたしが
- ☆私たちが
- ◆みんなが

- ★外に出たら、目標を決めてゴミを拾います
- ★ゴミ拾い活動（『町なか護美プロジェクト』）に家族や友人も誘い、広げます
- ☆自分が所属しているグループ・団体にも呼びかけ、活動を広げます
- ☆他グループ・団体と協力し、多くの住民が関われる仕組みを作ります
- ◆東村山の良いところを地域に宣伝（PR）します
- ◆花いっぱい町にするなど、ゴミのポイ捨てをしにくい地域にします

ポイント！

生活の中で無理なく参加でき、いつでも誰もが気軽に地域活動に参加ができます
まちへの愛着、人や地域への関心が高くなり、地域活動に参加できます

重点アクション ④

それぞれの人に合った、『行きたくなる場所&場』づくりを進めます

6年後の
目指す姿

ひと×場所&場＝つながり を実感できる東村山の実現

背景と
課題

- 最近誰とも話をしていない
- 世代を超えたつながりがない
- 学校が終わった後、いつもひとりで過ごしている
- 生きがいが見つからない

アクション

“行きたくなる場所&場” づくり応援ねっとを創設します



みんなの家
吉田さろん（青葉町）

こんな取り組み
できたらいいな！

- ★わたしが
- ☆私たちが
- ◆みんなが

- ★“ あったらしいなあこんな場所” を、具体的に考えます
- ★興味のある身近な場所に立ち寄り、交流します。知り合いや近所の人を誘います
- ☆他のグループ・団体との交流の場に、積極的に参加します
- ☆新しい場所や場づくりにチャレンジします
- ◆地域の中で、場所&場づくりに活用できる資源について考えます
- ◆様々なグループ・団体との交流の中で、課題解決について話し合います

ポイント！

社会のニーズに合った、多様な場所の創設につながります
“ 全ての世代での望まない孤立の解消” につながります

